夢童（ゆめわらわ）

98.9.17

菅波　茂

災害拠点空港の整備を

「千歳空港と那覇空港を災害拠点空港として整備すべし」との夢を見た。理由は、国内線が多い▽航空自衛隊基地あるいは米軍基地が併設されている▽海外の災害への対応が可能――などが挙げられる。

国内線が多いことと、基地が併設されていることは、国内災害に最も大切である。阪神大震災のような大規模災害が発生した時は、24時間以内に重傷者を被災地から最寄りの災害拠点病院にヘリコプターで転送しなければいけない。そのためには、6～12時間以内にヘリコプター用医療チームを被災地に輸送する前提があり、被災地に近い国内空港だけでなく航空自衛隊基地や米軍基地も使用する必要がある。加えて、千歳空港と那覇空港は日本の南北に位置しているので、同時に災害の被害を受けることはまずない。

海外の災害対応について説明したい。千歳空港は1995年のサハリン大震災のような北東アジアの災害に対応可能である。北海道庁は「北方交流圏構想」を推進している。これに「災害時相互支援条項」を入れることにより、日本の国際貢献の一翼を担うことができる。

那覇空港は24時間空港として亜熱帯地帯の隣国の災害に対応可能である。幸いにして、沖縄県は「国際都市形成構想」を提唱して、推進している。災害拠点空港化は沖縄県民の意思の具現化になる。

財源としては「災害拠点空港施設整備料」として両空港利用者から1回当たり30円をいただくことだ。両空港利用者数は年間2000万人を超える。すなわち、6億円の財源となる。

（アジア医師連絡協議会代表、題字は筆者）